

技術部会ワークショップ技WS-3 高気圧酸素治療における技師の役割 —安全で質の高いHBOの体制の確立—

灘吉進也

戸畑共立病院 臨床工学科

HBOの安全性は言うまでもなく、安全確保は担当技師の重要な責務である。ここでは技師の立場から安全性の確保を大前提としてチーム医療、ルール遵守、災害対策、人材育成、サービス、採算性、保守管理、業務支援など踏まえて報告する。

当院でのHBOに関する事故事例について、2009年4月から2012年9月までの3年6カ月を調査した結果、合計12件発生。転倒事故4件、チューブ類の自己抜去2件、病棟・事務との連携不備(コスト漏れなど)2件、治療予約間違い2件、患者の取り違い2件と日常の医療でも頻発している事例がHBOでも発生していた。

対策案として技士による送迎、技師間の情報共有ツールとしての確認票導入、ミトンタイプの抑制帯使用、確認作業の強化としてダブルもしくはトリプルチェックといったことを実施することにした。患者の取り違いについては、院内ルールとしてのリストバンド、生年月日、フルネーム確認などを再度徹底することとした。持ち込み物品に関する事例がなかったことは、現状のボディチェック表やダブルチェックがうまく機能している結果と考えられた。

ルール遵守について、安全基準やガイドラインなどを遵守しなければならない。また安全管理において特に重要なことは所持品検査である。看護師・技師間でのダブルチェックまた金属探知器を用いての検査などを行っており、当院においては持ち込み物品における事故は発生していない。保守管理について、どの施設でも装置の日常点検・定期点検を実施しているが、メーカーと協働して適切に行っていくことが肝要である。サービス面について、事前説明の実施、患者送迎、耳のトラブルに対する飴玉や飲料水のサービスを行っている。90分間特別な環境下で過ごすため、いかに快適に過ごして頂けるかが鍵となる。治療をドロップアウトする患者を減らしていくことも我々の重要な役割である。採算性は運用していく中で重要事項

の一つである。当院の工夫として急性期疾患に対し入院時・術前・術後からHBOを治療の選択肢として提案していくことである。これもチーム医療の形と捉えており医師に対する周知活動、治療の早期開始、症例数の増加に繋がる。医師との適切なコミュニケーションをとるために、途中経過の報告や、治療終了・継続の確認など適時報告することは、医師からのレポート率向上につながると考えている。業務支援について、治療説明と同意書の取得を支援することである。医師から治療目的などの説明を行い、再度技師から治療内容の詳しい説明を行った後、最終的な同意を技師が得るという体制をとっている。早期から我々が関わることで患者の不安軽減、治療中断の減少に繋がると考えられる。啓蒙活動について、新人対象に年一回、新人以外の職員対象に年一回の講習会を行い、知識・業務の標準化を図っている。チーム医療について、多職種参加型のカンファレンスを実施している。これはがん治療患者に対するもので1日2回医師、看護師、臨床工学技士、事務、薬剤師、放射線技師、事務員、看護補助員が参加する。がん治療はタイトなスケジュールで進み、診察から各治療、移動も含め全てのスタッフが係わる。治療スケジュール、抗癌剤の内容や副作用、患者の状態や治療時の状態などについての情報共有を行う必要がある。

当院HBOは開始から14年が経過し、年々症例数は増加傾向にある。今後も技師の立場から積極的に活動し、より安全で質の高いHBO体制を確立していきたい。

【文献】

- 1) 日本高気圧環境・潜水医学会：高気圧酸素治療入門
- 2) 日本臨床高気圧酸素・潜水医学会：臨床工学技士のための高気圧酸素治療入門
- 3) 瀧健治：基本からよくわかる高気圧酸素治療実践マニュアル
- 4) 高気圧酸素治療安全協会：絵で見るやさしい安全基準